

### サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式



## 八戸

### サイバー防犯で協力 八学大生16人を委嘱

県警はこのほど、八戸学

院大のビジネス学部と健康医療学部の1〜3年生計16人をサイバー防犯ボランティアに委嘱した。メンバーはインターネット上で見つけた違法・有害情報の通報や、犯罪被害防止のための教育活動、広報啓発活動などに協力する。

同大で委嘱状の交付式が行われ、蛭名均県警生活安全課参事官・保安課長事務取扱が「ネット上の情報流出、犯罪が相次いでおり、ボランティア精神豊かな皆さんの力を借りたい」とあいさつ。学生を代表してビジネス学科2年の川口航平さん(19)が「安全・安心なサイバー空間の確保に貢献する」と決意を表明した。

大谷真樹学長は「ネットは利便性の傍らで一歩間違えると犯罪につながる。大学で学んでいるスキルを使い警察の力になってほしい」と呼び掛けた。学生は県警のセミナーにも臨み、防犯への意識を高めた。

同大は全学生を対象に情報処理基礎の科目でネット利用のメリットとリスクなどを指導している。県警は2014年度から同ボランティアの仕組みを導入している。(岩村史生)

サイバー防犯ボランティアに委嘱された八戸学院大の学生ら